



カウンターにお持ちください

2011年01月06日 11:42:39

入館証番号:

Call Slip

<請求票> (控)

書名	
資料名 :	支那人の見た日本人
巻次 :	
著者名 :	信濃愛人訳//編
出版者 :	青年書房
出版年 :	1940
大きさ :	19cm
頁数 :	362p

リ  
ノ  
又  
ノ  
リ

所蔵館 : 中央  
 所蔵部署 : 1階資料お渡し・返却カウンター  
 配置場所 : 1/261 中)2F社会(閉)  
 資料ID : 1126270613

請求記号
3891
4

新刊 1-2

目次 1-3

本文 1-3,

23~41

*[Handwritten signature]*



### 譯者の言葉

互に國を異にする人々が面と向つて話す場合には、とかく嘘や誇張が混り易いものだ。本當の事を知らうと思へば、どうしても氣心の知れた者同志の腹の底を割つた話に據る外はない。こちらの悪口を言つてゐるから癪だとばかり考へて一概に耳を掩ひ眼をそらすのは大國民の態度ではあるまい。

さういふ考へから私はかねて支那の人達が支那の雑誌や新聞の上に（日本人に讀ませようといふ意圖を持たずに）書いたものを拾ひ集めてゐた。偶々蘆溝橋事件が発生して日支間の諒解は一日も遷延を許さない情勢になつた。そこで、兩國人の眞の理解の助けにもと、先づ支那側の資料を編譯して「支那人の見た日本人」といふ本を出した。

これは新東亞建設の戦士達にとつて對支認識及び自己省察の好資料であるとして識者の歡迎を受けたことを望外に思つてゐる。

もとより、外國人たる支那の人が日本を觀察し批評するのであるから、日本人が考へる様に好都合にばかり行かないのは當り前のことである。エジツケや誤解や、或はデマに類することも少なくないであらう。しかしながら、我々日本人が寛大な氣持を以て彼等の言葉に耳を傾けるならば、必ず何ものかを其處から得られる筈である。

私は此の本の内容が今日の日本人にとって無駄ではないことを堅く信じてゐる。何も殊更に支那眞風になる必要はないが、しかし、かういつたものを他山の石として、彼を知り己を知るやうにお互に努めてゆくならば、日支兩國人の間柄ももう少し何とかなるであらうと思ふ。

今回これらの資料を再び「支那人の見た日本人」といふ名の下に改裝して世に送るについては、更に最近のものを多數加へて内容を一層豊富にした。譯者の微衷を汲んでいただければ幸ひである。

昭和十四年十一月

## 目 次

### 譯者の言葉

日本人の支那人に對する態度.....	郭沫若	(一)
日 本 人.....	羅 牧	(四)
日本及び日本人に對する私の觀察.....	徐 北 辰	(六)
日本民族の二三の特性.....	傅 仲 濤	(三)
日本民族の健康さ.....	劉 大 杰	(五)
日本の婦人.....	錢 歌 川	(五)
日本の男と女.....	俞 鴻 謨	(五)
日本人の文化生活.....	郁 達 夫	(五)

洋化した東京	黄	慧	(二〇)
女風呂	徐玉	文	(二二)
求縁廣告	徐玉	文	(二二)
排外	綺	芳	(二二)
永久に残るもの	綺	芳	(二二)
感想いろいろ	謝星	河	(二三)
日本留學日記抄	黄海	震	(二四)
「氣がすまない」	徐玉	文	(二五)
東京を懐ふ	周作	人	(二五)
嚴肅と滑稽	尤炳	圻	(二五)
遊日鳥瞰	廖世	承	(二五)

印象中の日本	胡行	之	(二七)
遊學日記	老	Y	(二七)
日本人いろいろ	魏中	川	(二七)
デマは懐め	汪兆	銘	(二七)
敵中に友あり	謝冰	攀	(二七)
日本女車掌	王桐	齡	(二七)
支那と日本の西洋化	胡適	適	(二七)
日本論	蔣介	石	(二七)

## 日本人の支那人に對する態度

郭 沫 若

日本人は「中國」のことを「支那」と稱する。本來「支那」といふのには何等悪い意味はなく、これはもと「秦」の字の音が變化したのだと言ふ人も有る。しかし、これが日本人の口から出る場合には、歐洲人が猶太人をヂューと呼ぶのよりもつと下等になる。この態度が最も露骨に現れてゐるのは、彼等が國際關係を表示する文字の慣例だ。例へば、中國と日本とを並記する様な場合には「日支」と稱するのが例になつてゐるが、これはもともと「内では魯、外では中夏」式のやり方で、恰も支那人が「中日」と稱する如く、謂はばお互様であり、土地が變れば呼び方も變るといふわけである。然るに、この本國に對する場合は別として、その外にも大いに差別が有るのである。「支那」は其他の一個又は一個以上の國家と並列され

る場合にも常に下位に置かれてゐる。「英支」「佛支」「獨支」「米支」「白支」「伊支」「露支」の如きその例である。甚しきに至つては暹羅と並列する場合の「暹支」、フィリッピンと並列する場合の「菲支」、朝鮮と並列する場合の「鮮支」、近年はまた滿洲と並列して「滿支」と稱し、これに日本を加へて「日滿支」と稱するなど、彼の『春秋』に於て蠻夷を盟約國の最下位に列したのと一樣で、支那は常に最も劣等の地位に置かれてゐるのである。かういふ現象は、多少注意して日本の新聞紙を見ればすぐ解る。其中感心させられるのは、それが劃一的に行はれてゐることだ。これらの表現法に關しては、もともと國法とか文法とかの規定が有るわけのものではないが、幾千の新聞幾萬の記者が皆申し合はせた様にかういふ表示法を取つてゐるのであるから、かうした所からでも彼等の國是は窺はれるのである。

日本人はとすれば我々支那人が毎日抗日をやると言ひ、而もこれら不逞の行動が大抵日本留學生に源を發してゐることを以て甚だ不可解としてゐる。彼等にはどうも腑に落ちないのである。歐米に留學した者は皆歐米親善家であるのに、何故に日本留學生に限つて抗日

をやめるのか？ かういふ質問は私自身でも度々受けたことがあり、他の人はどう返答してゐるか知らないが、私はこれまで實に返答に苦しんだものである。ところが最近になつて私は一つの極めて正確な解答を思ひつた。それは、日本の教育が良好の結果を收め得たからだ、といふのである。といふのは、日本の國民教育の大本は忠君愛國であるが、斯くの如き教育法の下に薰陶せられた支那の留學生達は、いよいよ國に歸つて見ても忠を盡すべき君は無い。さりながら、愛すべき國はなほ存在してゐる。かういふ關係からして支那の留學生達は所謂「不逞化するのである。日本の教育家、爲政者、乃至は一般に疑念を抱いてゐる人々は、皆これを以て慶賀して然るべきであらう。日本人はこの點では歐米人に比べれば眞實がある様にも思へる。何となれば、日本人の方は刀の中に笑を藏してゐるが、歐米人の方は笑の中に刀を藏してゐるのだから。

——字宙風——

## 日本民族の二三の特性

傳 仲 壽

日本民族の特性を語るといふことになると、それは容易に解決される問題ではない。それには日本民族の歴史から一切の生活条件までを分析しなければならないからである。今はそこまで論ずることは出来ない。我々はまた日本の國粹主義者の後塵を拜して、神がかり式に何の彼のと説きたてることは出来ない。さればとて、機械的唯物論者の口吻を真似て、一切の固有の歴史の特質を否認し、ただ普遍的に資本主義といふ一枚の皮を被せて、それで以て問題の解決を得たりとなすことも出来ない。

日本民族の特性の理解といふ此の問題は支那の一般にとつて甚だ必要なことである。過去は説くに及ばずとしても、現在ならびに未來に於て、それは常に支那人の理解のうち緊要な部分を占めるべきである。理由は至つて簡單で、譬へば、互にお隣同志であつて見れば相互に交渉ではすまない、といった様なものである。かりにも一方が他方の特性を理解してゐないならば、交渉もうまく行かず、紛糾は次から次に起つて來ることになる。さてまた古語にある様に「己を知り彼を知れば百戰百勝す」といふのを引き合ひに出して來るならば、いよいよ以て重要な上にも重要といふことになるのである。日本と支那の間柄はどうしても只の隣同志とは異なつてゐる。隣に居て氣が合はねば他に居どころを移してもいいのであるが、國と國の間ではさう簡單には行かず、運命をひとしくし存亡を共にする關係にもあるからである。互に隣に住まつてゐるだけでさへ理解が必要であるからには、運命を共にする程の關係にある隣國同志に於ては尙更必要である。我々支那人は此の點に對してはこれまで甚だ無頓着であつた様でもある。日清戰爭以前には、勿論自分の方は中華で日本は夷狄だとい

ふ考へがあつた。滿洲事變の前に於ても尙輕蔑的態度を捨てずに居た。現在とは言ふに、恐らく大部分の人は、日本を知ることつまり日本に媚びることであると考へて、死んでもそんなことは厭だといふ様子が有る。これは勿論大きな誤りである。何となれば、これまで先方を了解してゐないといふ落度があつたために、事毎に失敗をしてゐるのである。僅か一個月の間に千里の土地を失つてしまつたのも、かうした點に原因がないとは言はれない。若しも平素から相手方に対して深い理解を持つてゐたならば、支那の朝野雙方とも滿洲事變の處置に対してあの様な間違ひは決してやらなかつた筈である。ところで滿洲事變から降つて塘沽協定に至るまでは要するに一篇の序幕に過ぎないのであつて、今後兩國が益々接近すると共に關係は益々緊密となるから、苟も支那民族の和平安寧及び東亞大局の和平を保持せんと欲するならば、日本を了解するといふことは實に最も重要にして不可缺の工作なのである。

## 二

日本民族の特性は實に甚だ容易には斷定されないもので、内容の複雑なること支那民族に比較しても恐らく一層甚しいであらう。日本は元來島國であつて、移入したところの民族と文化はどれも非常に複雑である。ところが、島國である關係上、天孫民族が移入して來てから後には、大規模の異民族の侵入は殆ど不可能であつた。小規模の異民族の移入は斷えず行はれてゐたけれども、結局元來の民族に打勝つことが出来ずして、これに同化されてしまつた。其間支那文化及び佛教文化が大規模に移入されて彼等に決定的影響を與へたことはあつたけれども、それも彼等の自我の認識と獨立自尊の精神を滅却する程のことはなく、却つて彼等のために吸収せられ、利用せられて、今日の日本的文化を造り上げてゐるのである。

これらの原因については、日本の皇室及びその天孫民族の統治宜しきを得たることに功を歸せざるを得ない。彼等は海外交通の全權を握つてゐたから、經濟上に於ては國內各地の小民族に勝ちを制することが出来、また文化上に於ては儒佛兩教の精華を輸入して、皇室中心的思想を建立することが出来たのである。就中、『春秋』や『史記』の精神を應用して、地方



的及び時代的に行はれてゐた各種の傳説を融合一致せしめ、各種の帝紀や『古事記』等を撰したのであつた。是に於て思想上には、天孫民族が日本民族の主體といふことになり、その他の豪族はその傍系となつた。そこで皇室は只に政治經濟の中心であるばかりでなく、思想上信仰上の中心ともなり、其後政權は屢々下に移つたけれども皇室は依然として萬世一系の尊嚴を保つてゐるのである。斯くの如く、政治上及び思想上に於て萬世一系の中心が有るがために、政局は比較的に安定し、思想上及び文化上に漸次堅固不拔の自我意識を形成した。従つて、從來斷えず少數異民族の移入と儒佛兩教思想の浸潤があつたにも拘らず、萬世一系の皇室に對しては政治的にも思想的にも共に質的變化を生ずることなく、それらは却つて日本民族に吸収せられて彼等の精神となつたのである。この種の萬世一系の思想はその由來する所は固より儒教であるが、これはやはり日本民族が産み出した所の唯一の特色たるを失はない。この種の思想と一般の忠君思想とは同じからざる所がある。日本のそれは權威に對する屈服ではなくして、一種の宗教型的信仰である。この點に於ては確かに世界に類がなく、

日本民族の第一の特性であると言はなければならない。

この特性から誘導せられて出来るものがつまり日本的な自我意識、即ち日本國家に對する認識及びその一切の觀念である。現代の日本人は何時いかなる土地に在つても、總ての人が報國の觀念と國威宣揚の觀念を有することは我等の知る通りである。國家の干城たる軍人や在外の使臣は固より言ふまでもなく、下は物賣りや小使達に至るまで、苟も一旦國家の利害に關する事となれば、次第によつては屍を地に晒しても厭はず、さうでないまでも、いかなる場所にも入り込んで行くのである。例へば日露戰爭時代に、軍機を探つて日本軍のため間諜となつた實業婦があつた如きは即ちそれである。また支那各地に散らばつてゐる所謂支那浪人の如きはそれ以上に日本國家主義の先鋒であつて、只その報國の方法が尋常と異なつてゐるだけのことである。甚しきに至つては、日本語も話せないアメリカ籍の日本移民までが、平素その父母の薫陶を愛けてゐるために、決して祖國たる日本を忘れない。彼等は口先では只もうアメリカ、アメリカで、日本などには些かの未練もない様なふりをしてゐるが、

## 日本民族の二三の特性

一旦日本とアメリカの間に戦争が起つたならば、これらのアメリカ籍の日本移民は皆有力な内通者となる可能性が有る。

かういふ強烈な愛國心は單に現代資本主義の日本社會にだけ有るのではなく、封建社會の日本も亦これと同様であつた。徳川時代の本居宣長一派の國學思想は即ち封建時代における國粹主義の代表である。藤原惺窩、林羅山等の如き朱子學派の學說に至つては、それ以上に後世の尊王思想の根源となつてゐる。彼等は一面では朱子學說の信徒であつたが、一面また熱烈な忠君愛國的學者であつた。又、佛教界における日蓮、彼の教旨と行動は尙一層忠君愛國の模範である。更に遡つて南北朝時代（西曆一三三六—一三九二年）及び戰國時代（西曆一四六七—一五八三年）に至れば、皇室は衰微して、忠君の觀念は一般には甚だ薄弱ではあつたが、それにも拘らず遂に一人として皇位を篡奪せんとする如き者はなかつた。歴代幕府の將軍は事實上日本の主權者であつたが、表面上はやはり皇室を擁戴せねばならなかつた。その理由はと言へば、忠君の念が深く人心に入り込んでゐるために外ならない。従つて權勢

赫々たる足利尊氏や、北條時政、徳川家康の如きも天下の位を冒す如き大逆を敢てしたり、支那流の禮讓空居を打つたりする様なことは絶えてなかつたのである。封建時代に於ては國は君の有であり、君は即ち國である。人民が君主に對する忠は即ち國家に對する愛となる。忠君と愛國とは封建社會に在つては元來二途なきものであつた。それ故二千年來萬世一系の忠君思想によつて養成された愛國精神はその根柢が極めて深く固く、決して數十年間の資本主義による國家主義的教育がよく馴致し得る所ではなく、また決して資本主義的愛國心などと比較さるべきものではないのである。彼等日本人が萬世一系の國家に對する熱愛には確かに並々ならぬものが有る。例へば五・一五事件にしても、犬養首相を射殺した兇徒を社會はなほ忠君愛國の士を以て之を遇し、極めて軽い刑罰を課したに過ぎぬ。此の種の愛國心が普通と異なる點は、それが萬世一系の思想によつて養成せられ、各人は皆報國の觀念と國威宣揚の自覺とを有しなければならぬといふ所に在る。これは日本民族の第二の特性である。

## 日本民族の二三の特性

## 三

源頼朝が建久三年（西曆一一九二年）幕府を鎌倉に開いてからこのかた慶應三年（西曆一八六七年）徳川慶喜が皇位に大政を奉還するに至るまでの六百七十五年間は全く軍人の執權時代であつた。この六百七十五年間の幕府の武家政治は日本民族の思想精神に對して決定的影響を及ぼしたことは當然である。その好い方面の影響としては、尙武、有爲、果敢、積極、剛毅、緊張、眞面目等の特性を養成したことであり、好くない方面の影響としては殘忍、殺伐、性急、小器の缺點を形作つたことである。

好い方面は、日本をして今日の強盛あらしめる原動力となつた。日本が弱小被壓迫民族の地位から一躍して僅か數十年間に五大強國三大強國の一となつたのは決して偶然の結果ではない。單に資本主義的方式を持つて來ただけでは、上下の民衆が斯くまでに眞面目に努力する様に仕向けることは決して出來ない。この眞面目に努力するといふ精神は、日本人の一切

の活動領域中に發見する事が出来る。遠くは明治維新の史實の中に無數の例證を求めることが出来るし、近くは又今回のオリンピック大會に於てその眞面目に努力する姿を見る事が出来る。日本は體育やスポーツに於て數年前まではなほ一個の落伍的國家であつたが、今回のオリンピックに於ては未だ必ずしもアメリカ、ドイツに勝るとは言へないまでも、イギリス、フランスに比べれば斷然上位に在るのである。これによつても解る通り、日本の軍隊が精銳であるといふのは決して棚ボタ式に得たものではなく、數十年來の眞面目な努力の結晶なのである。實に或民族の前途が有望か否かは全く民族全體の努力に繫つてゐるのであつて、外部的な力は如何なるものであつても決してこれに指一本觸れることは出來ないのである。

次に性急で度量が小さいといふ缺點であるが、これこそは日本人が失敗する原因である。日支間の今までの惡感情は大半は日本人のかうした缺點のために起つて來たものである。かういふ缺點は只に日支間の惡感情を誘發するばかりでなく、國際間に於ても往々作らなくて

## 日本民族の二三の特性

もよい敵を作ることになる。アメリカやロシアは最初は必ずしも日本人を敵に廻すつもりはなかつたであらうが、日本人が物事に性急で度量が小さいために、どうしても疑念を起さずには置かなくなるのである。なほ、残忍殺伐の性があることは、對外的には勿論勇敢にして戦闘に長ずることになるが、對内的方面で往々國禁に違ひ國法を亂るやうな事件を發生する。殺人事件や自殺の多いことは、列國の間に於て第一位とは言へないにしても、決して末位に下ることはあるまい。かういふ缺點は日本の國運が隆盛な今日に於ては只疥癬位にし考へられないが、他日國力が老衰して來る様な時が若し有るとすれば、それこそ手の着けられない大病となるであらう。

## 四

日本人は一般に模倣に長じ、時流を追つて外國の文化を採取しては自國の文化を發展させてゐるが、これは確かに日本の特性の一つである。例へば目下純日本精神による日本主義を

鼓吹してゐるが、多くは西洋の哲學を藉りて自己の理論的基礎としてゐる。彼等はフアツシズムの全體主義的哲學を利用して日本主義的全體主義を構成し、またヘーゲル哲學及び新カント派哲學を利用して日本主義の哲學となしてゐる。日本の立國精神と甚だ深い關係にある『古事記』及び『日本書紀』は支那の『史記』及び『漢書』の影響を受けて居り、『神皇正統記』は朱子の『通鑑綱目』學の影響を受けてゐる。又、徳川時代の日本國學の泰斗本居宣長の如きも、その思想的根柢はやはり儒佛兩教である。平田篤胤になると儒佛兩教以外に基督教の主張をも取り入れて、彼の神道の基礎を構成してゐる。なほ又、現代日本の文化及び思想も多くは西洋文化及び思想の模倣であることは言ふまでもない。

日本人が外國の文化を取り入れて自國の文化を發展させることに長じてゐることは、即ち日本文化の進歩して息まざる所以であり、また日本精神なるものの及ぶべからざる所以でもある。日本は文化方面に於ては元來は白紙であつたと言つてもよく、それ故に容易に他の色彩に染み、現在では却つて複雑な日本文化を構成してゐるのである。この複雑な日本文化の

中には當然多くの矛盾性を含んでゐる。例へば、本來無差別の佛教の主旨と差別の有る國家主義及び愛國心とは、根本に於て互に融和しないものである。ところが日本人はこの二つの絶対に相容れない宗旨を融和せしめて別に一派を創めることが出来た。日蓮宗と浄土真宗の二つはその恰好の例である。甚しきに至つては、天照大神は大日如來の化神にして日本の神は佛菩薩の化身なりと主張して、神道と佛教の融和を謀らうとさへした。斯くの如く、彼等は外國の事物を眞剣に眞似し、これに多少の變更を加へ、日本的の要素を追加して、それで日本のものとしたのが往々に有る。支那の漢字の如きも、日本に輸入した後は意味を棄てて音を取り字體に變化を加へた上、日本の假名としてしまつたが、これもその證據である。かういふ方面は、獨創性が缺乏してゐるためでもあるが、また日本人が進歩する所以でもある。以上によつて見るに、日本人は人眞似が上手であるばかりでなく、之を變化することも上手である。例へば假名と漢字の如きも、根本に於ては同一であるが實際上の作用は全く異なつてゐる。試みに假名の字體を見れば分るが、全く日本風になつてゐる。支那の衣冠の如き

も日本に入つて來ると多少の變更が加はつて日本の衣冠になつてしまふ。ただ然し、日本人がこれを變化させるについては一貫した精神が有るのであつて、決して出鱈目に變化させるのではない。この一貫した精神こそは先に述べた日本的自我の認識である。この認識は一切の矛盾せる文化をして統一に歸せしめ、複雑を變じて簡單と成し、晦澁をして平易ならしめ、凝滞をして流麗ならしめる。かういふ變化は漢字の字音に於て最もよく顯れてゐる。例へば「安」の字の支那音は アン であるが、日本では ヤス に變じてゐる。「唐」の字の支那音は タン であるが、日本では カラ となつてゐる。ここに我々は、日本人が流麗、平直、明亮、淡泊、天真を愛するといふ特性を發見することが出来る。この特性は、日本の文學、美術、工藝、建築、服飾等の中にそれを裏書するものを發見することが出来る。日本人の作つた文章は讀んで見ても大概流麗で、恰も深山の清流が流れ流れて盡きない様な感じである。支那人の文章が一句一句、一字一字各々それ自身の重量を持つとは決して一樣ではない。それから日本の刺身であるが、これは透き徹る様な鮮魚の純肉を規則正しく薄切りに切つて、赤身と白身

が互に映える様にキッチンと並び、青い模様で白い釉薬をかけた楕圓形の小皿に入れて出すもので、傍らには紫黒色の醤油の小壺が置いてあり、別の側には黄色い芥子が置いてある。この磁器の小皿を艶やかな赤漆塗りのお膳に載せた所は、それだけでもう一幅の綺麗な畫である。日本人の賞味するものは、支那人の様に「辛甘酸苦辣」の五味だとか各種の香味料などを混ぜ合せた複雑な内容のものではなく、只鮮魚貝類の口やはらかな、アツツリした、ごまかしの無い眞の風味なのである。日本の物は大概食べた所がサラリとしてゐて、後口が悪いといふやうなことは少しもない。この點は日本風の味はひを代表すると共に、彼等日本人の特性を表現するものである。

日本人は複雑なものを變じて簡單になし、晦澁なものを平易化することを好むのは固よりであるが、同時にまた彼等の工作は極めて精細微妙で器用である。この點に關しては日本人は確かに獨擅場を持つてゐる。かういふ細かさ亦日本人の文學、美術、工藝、建築、服飾等の中に無数の證據を發見することが出来る。例へば最も著名な日光東照宮の陽明門即ち俗

に日暮門といふのであるが、その大きさは格別のことはないが、彫刻の精巧なことは誠に評判に違はぬものである。若し閑な見物人があつて、着着いて仔細に一つ一つを鑑賞したならば、それこそ「日の暮れるのも覺えない」であらう。又、日本の文學作品の如きも、若し克明に推敲研究を加へて見るならば、一字一句の微細な使ひ分けは到底支那文に翻譯出来ないものがあらう。なほ又、街に賣つてゐる日本製の西洋人形の如きも、仔細に調べて見るとその細工のこまかい點が分るものである。

日本人のこまかさと器用さは往々末精神的であり極めて敏感であつて、遂にはそれが複雑煩瑣となるものである。この複雑さは元來こまかさから來てゐるのであるから、全體としては統一性を持つてゐるが、しかし規模の大きさには缺けてゐる。かういふ例は日本人の一切の制作及び生活の中に發見することができる。例へば同じ一ことの話でも男の話と女の話では違つた所が有り、上流の人と下々の人の話にも違つた所が有る。この言ひ方は目下或は目上に向つて用ひるとか、上司に對して用ひるとか、或は天皇、貴族に對して用ひるといふ

風に各々區別がある。話す人の職業、階級、身分、及び相手方の職業、階級、身分に應じて各々その用語を異にしてゐる。言葉使ひを恭々しくしようとせば敬語をいくつとなく使用しなければならぬ。又、我々が日本人の家に行くとする、玄関に入ると早速穿いて来た履物を脱いでスリッパと穿き換へねばならない。應接間に通ると又、外のスリッパを脱いで室内のスリッパに穿き換へる。若しも便所に行くとか庭に下り立つとかする時には、必ず例の如く脱いで便所用又は庭用の下駄に穿き換へねばならぬ。日本人の生活の中には此の様に複雑瑣瑣なところが甚だ多いのである。

こまかくて器用であるといふ特性は、必然的副産物として唯美主義を伴ひ、甚しきは耽美主義に陥ることさへある。この唯美主義的精神は、流麗平直を愛する氣持と互に因果關係をなすもので、同時にまた日本の山紫水明の風景と密接な關聯を有してゐる。かういふ唯美主義的精神は日本人の一切の作品及び生活の中に發見することが出来る。例へば日本料理であるが、その三分の二までは眼を楽しませるものから成つてゐると言へる。又、日本人の家屋

は小じんまりとしてゐて、住んで心地がよいと言ふよりは寧ろ見た眼に甚だ美しいものである。日本の家には決して支那の家屋の様に好んで多くの透し浮彫を彫つたりなどせず、又赤い漆をベタベタ塗りつけた色彩畫などもない。日本の家では、木材をスベスベする様に一樣に鉋をついて綺麗な木目を現はしたり、或はわざと斧の痕を残したりすることを好む。彼等の好む所の美は華やかさではなくて雅びやかさであり、枯淡な、神代ながらの、天眞流露せるものである。廣くもない庭には一面に苔のむすことを好み、池を掘るにも石を置くにも皆天然自然の趣に合致することを喜ぶのである。

## 五

日本民族は一面に於ては唯美主義的乃至耽美主義的精神を有するが、他面に於ては又甚だ現實的である。現實主義は確かに日本民族の特性の一つである。この現實主義的精神は奈良時代（唐の中宗から徳宗に至る間）の文物に於て甚だ明瞭に表現されてゐる。平安朝（唐の

徳宗から南宋の孝宗に至る間）以後になると固より若干の變遷は生じたが、然し現實主義的風潮は現在になつても依然として濃厚である。遁世修行を旨とする佛教の如きも日本に渡つて來ると漸く變化して肉食妻帯の念佛宗となつてしまつたが、これも日本人の現實主義的特性がさうさせた一つの例である。儒教の如きも亦現實主義的であるから容易に日本人の信奉する所となるが、清淨無爲の老莊の思想の方は取つき難くて這入れないのである。さういふわけで日本人の行動は多くは直接的有效的であつて、「取らうと思ふ時には必ず何かをやつて置く」といふ様な玄人めいた手段を使用することは決してない。かういふ現實主義的精神が日本人をして、多くの外來文化の中から自國の國情に合ひ日本にとって有利な様な要素を採取させ、ここに一種の消化作用を起したのである。この精神は日本人をして各方面に於て成功せしめたが、同時に一定の限界をも與へてゐる。日本製品（譯）の如きはその例であるが、これが全世界各地にダンピングされるのは、全く日本人が精神上、勞力上、及び物質上の一切の浪費を節約して、現實を尊重することが出来るからして、生産費も従つて低廉となり、先

進國の商品を壓倒することも出来るのである。かういふ現實主義的精神と現代資本主義の精神、科學的文化とは元來相通するものである。従つて日本人は立ち所に之を理解し、立ち所に成功することが出来たのである。

—宇宙風より